



今まさにがなければ 戦争に行く道を

「九条の会」緊急記者会見 澤地久枝さんの発言

「九条の会」が8日に国会内で開いた「安倍晋首相の九条明相の九条明文改憲発言に抗議する」緊急記者会見で、呼びかけ人で作家の澤地久枝さんが行った発言（要旨）は次の通りです。

「九条の会」が8日に国会内で開いた「安倍晋首相の九条明相の九条明文改憲発言に抗議する」緊急記者会見で、呼びかけ人で作家の澤地久枝さんが行った発言（要旨）は次の通りです。

「九条の会」が発足して満11年を迎えるとするいま、こんなにあわただしく粗末な形で憲法を否定する事態は、予測ほしながらも実現するとは思つた。安倍晋首相は、明文改憲を強行するとしている。アメリカが戦争を起させば、日本の自衛隊は共同歩調をとることになります。今まで一人の戦死者を出さず他国の人を1人も殺してこなかったといふ。戦後の歴史が終わる、私たちが絶対にやらないと70余年前に誓つた戦争がもう一度よみがえり、私たちが決して負け

ていませんでした。安倍首相が改定しようとしているのは特に9条2項です。交戦権を認め、人を殺し殺されることを公に認めようとする動きです。安倍晋首相は、憲法学者の7割が（9条2項を）捨てる」と反対であると言ひながら、明文改憲を強行するとしています。

本當にいま命がけで明文改憲に反対しなければ、日本はもう一回、戦争する國になり、私たちの子や孫、ひ孫たちが意味もなく人の殺し合いの場に出で行き、かけがえのない命を失うことになる。今こそ本當に、戦争に行く道をはっきりとさせなければならぬと思っています。

つてきます。

安倍晋三首相は、2月3日と4日の連日、衆議院予算委員会の審議において、戦力の不保持を定めた憲法の条2項の改定に言及します。安倍晋首相が改定しようとしているのは特に9条2項です。交戦権を認め、人を殺し殺されることを公に認めようとする動きです。安倍晋首相は、憲法学者の7割が（9条2項を）捨てる」と反対であると言ひながら、明文改憲を強行するとしています。

本當にいま命がけで明文改憲に反対しなければ、日本はもう一回、戦争する國になり、私たちの子や孫、ひ孫たちが意味もなく人の殺し合いの場に出で行き、かけがえのない命を失うことになる。今こそ本當に、戦争に行く道をはっきりとさせなければならぬと思っています。

「安倍首相の九条明文改憲発言に抗議する」

「九条の会」アピール

安倍晋首相がどんなにうそつこしても、全国に広がった「九条の会」は、何をもせません。全国各地、地方の人々とも手を取り合ひ、そのつながりを大切にしていくことで、私たちは決して負けないと思っています。

「九条の会」アピールの声を押しきつて、

安倍晋三首相は、2月3日と4日の連日、衆議院予算委員会の審議において、戦力の不保持を定めた憲法の条2項の改定に言及します。安倍晋首相が改定しようとしているのは特に9条2項です。交戦権を認め、人を殺し殺されることを公に認めようとする動きです。安倍晋首相は、憲法学者の7割が（9条2項を）捨てる」と反対であると言ひながら、明文改憲を強行するとしています。

本當にいま命がけで明文改憲に反対しなければ、日本はもう一回、戦争する國になり、私たちの子や孫、ひ孫たちが意味もなく人の殺し合いの場に出で行き、かけがえのない命を失すことになる。今こそ本當に、戦争に行く道をはっきりとさせなければならぬと思っています。

「九条の会」などと、従来の政局見解からも逸脱する答弁で逃げ回りました。ところが今度は、そうした解釈変更と法

律制定による憲法破壊

に加えて、明文改憲の主張を公然とするに至ったのです。それは、有事における首相の権限強化や国民の権利制限のための「緊急事態条項」創設の主張にも如実に現れています。

私たち九条の会は、自らの憲法尊重擁護義

務をまつたくわきまえ

ないこうした一連の安

倍首相の明文改憲発言

に断固抗議します。2

007年、9条改憲を

公言した第一次安倍政

権を退陣に追い込んだ

世論の高揚の再現をめ

ざして、戦争法を廃止

し、憲法9条を守りぬ

いこと、そのため、

このことを公言するも

のに他なりません。

昨年9月、政府・与

の時は、「集団的自衛

権の限定行使は合憲」、

すぐ始めることを訴えます。